

環境研究の最前線

環境研究総合推進費は、持続可能な社会構築のための環境保全に資することを目的とした政策貢献型の競争的研究資金です。平成26年度に終了した環境研究総合推進費の研究課題の中から、国民の皆様に関わりやすく、関心も高いと考えられるものを選んで、成果発表会を開催します。

環境研究の最前線に関心をお持ちの皆様、研究成果の活用を検討されている自治体・企業の皆様、環境研究総合推進費への応募をお考えの研究者の皆様など、幅広い方々のご来場を心よりお待ちしております。

日時：平成27年10月23日(金) 13:00～16:30(開場 12:30)

場所：都道府県会館 1階101大会議室 (東京都千代田区平河町2-6-3)

定員：120名 (先着順)

参加
無料

プログラム

13:00～13:10	開会 主催者挨拶 環境省		
13:10～13:40	再生可能エネルギーを活かすネットワークのかたち	小林 久	茨城大学農学部 教授
13:40～14:10	廃きのご培地の再生による持続可能な循環型農業システムの構築	宮本 徹	株式会社前田製作所 新規事業部 部長 東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設 非常勤講師
14:10～14:40	廃自動車の行方を考える —資源と環境の視点から見た使用済み自動車—	酒井 伸一	京都大学環境安全保健機構 附属環境科学センター長・教授
14:40～14:55	休憩(15分)		
14:55～15:25	暑いだけじゃない地球温暖化 —世界の気候モデルが予測する東アジアと日本の雨—	高藪 縁	東京大学大気海洋研究所 教授
15:25～15:55	ダム開発によって脅かされるメコン川の生態系サービス	福島 路生	国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員
15:55～16:25	新規環境汚染物質? シリコン化合物の環境汚染実態を探る	堀井 勇一	埼玉県環境科学国際センター 化学物質担当 専門研究員
16:25～16:30	閉会		



小林 久 (こばやし ひさし)

長野県生まれ。民間コンサルタント会社勤務、コンサルタント事務所主宰を経て、1996年から茨城大学農学部(東京農工大学大学院兼務)、専門は農村計画学、地域資源計画や小水力開発などの研究に従事。



宮本 徹 (みやもと とおる)

2006年東北大学環境科学研究科修了。博士(学術)。基礎研究例が殆んどないソフト水熱プロセス(200℃以下の高温高压の水)の化学特性を明らかにし、RNase、Endotoxinの不活性化と新しい滅菌法、および廃きのご培地再生等の応用研究開発に従事。



酒井 伸一 (さかい しんいち)

1955年生まれ。国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長を経て2005年より京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター教授。専門は環境工学。廃棄物管理や循環型社会形成を主に研究。



高藪 縁 (たかやぶ ゆかり)

甲府市生まれ。東京大学理学系修士課程修了、博士(理学)。凸版印刷、国立環境研究所勤務の後、2000年東大気候システム研究センター助教授、07年同教授。10年より現所属。専門は熱帯気象と全球気候と降水。



福島 路生 (ふくしま みちお)

1964年東京生まれ。米国アラスカ大学にてサケの生態、個体群動態を研究し、博士号を取得。1996年より現職。ダム開発をはじめ、人間活動の魚類また河川環境に及ぼす影響の評価と予測、希少淡水魚の保全などを研究のテーマとする。



堀井 勇一 (ほりい ゆういち)

茨城大学大学院修了。米国でのポストドクを経て、2008年より埼玉県環境科学国際センターに勤務。ISO/TC147 コンビナーとして国際標準化事業に貢献。残留性有機汚染物質の環境モニタリングやリスク評価等の研究に従事。

※環境研究総合推進費の平成28年度新規課題の公募については、環境省HP内の下記の環境研究総合推進費サイトをご覧ください。

(「推進費」で検索。http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/koubo/index.html)

※成果発表会の様子は、後日、環境省HPに掲載予定です。